

# 駐車場の設置状況から見る開発時期の違いにおける沿道の様相の差異

## —平塚通り・しらかし通りを事例に—

松山周一

### I. 研究の背景・目的

茨城県つくば市の「平塚通り」と「しらかし通り」は、柴崎交差点を結節点として隣接している。2つの道路の開発時期は、異なるものである。この影響から沿道の様相はまるで異質なものとなっている。「平塚通り」は1970年代以降の筑波研究学園都市の開発に行われ、テクノパーク桜は1990年代前後に開発が行われている。

本研究では、道路に沿って立地する施設に注目する。駐車場・駐輪場の設置状況とその特徴を通して、開発時期の違いや、立地特性の違いを見極め、道路沿いの景観から影響を考察する。

### II. 研究対象・分析手法

2つの道路沿線の「建築物の景観」「駐車場・駐輪場の設置状況」を調査する。範囲は図1のエリアとする。この結果を比較・検討し考察する。

### III. 分析結果

柴崎交差点を境に、駐車場の設置形態・設置状況に明らかな変化が見られた。「平塚通り」においては、沿道の建物は、すべてにおいて車で直接建物の駐車場に入ることが不可能となっている。また傾向として、平塚通りに向けて店舗の入り口が立っていることが多い。さらに駐車場はもそれぞれの店舗ごとで所有している。停車可能台数も10台以下の店が多いのである。

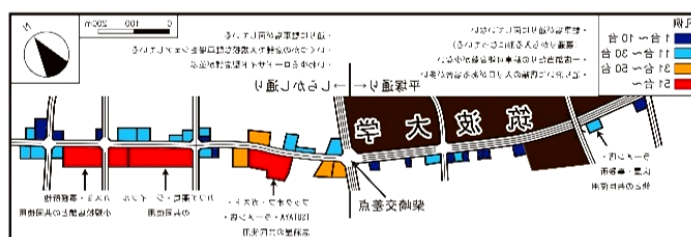
一方で、「しらかし通り」について、道沿いは典型的なロードサイドの様相を示している。多くの店舗が10台以上の駐車場を保有し、なかには50台以上の駐車場を保有する店舗もある。また、いくつかの店舗で120台近く停車できる駐車場をシェアするという形態も見られた。

### IV. 結論

1970年代と1990年代では自動車保有台数も異なるものであった。ロードサイドも完備され自転

車や自家用車で買い物や食事に行くという習慣に変わり沿線も変化したのではないかと考えられる。「平塚通り」「しらかし通り」は当時の面影を残しつつ、いまでも人々の生活に根付いているものと考えられる。

図1 研究対象地域の概要と駐車場の設置状況



### 参考資料

商店街の歴史 | つくばテクノパーク桜 商店会  
<http://technopark-sakura.com/history> 2017年2月8日を参照